



大きな愛情で包んでくれるパパやママのひざの上は、赤ちゃんの特等席。肌のぬくもりを感じながら優しい肉声を聞くことで、あたたかな心をはぐくみます。

本との出会い  
Bookstart



ふるさとの昔話、どうでしたか？ 戦前の大家族時代には、子どもたちは祖父母の昔話を聞きながら育ちました。しかし現在は核家族化が進み、子どもたちへの言葉かけも不足しがち。そんな中、親子のふれあいのきっかけになるのが「ブックスタート」です。

# 本の魅力とその可能性を探る



宮本昌栄さん 市原雅子さん 岸谷元美さん 土居美穂子さん 近藤佳月子さん

癒しのひとときをあなたに...  
絵本を読む会「ぶらんこ」です！

## 表現力を身に付ける

「子どもの周囲の大人たちは、常に言葉を吸収されている感覚を持つてほしいと思います。だから、子どもには優しい言葉をかけることが必要なんです」と岸谷さん。また、言葉掛けによって、まだしゃべることのできない赤ちゃんは「言葉数の貯金」をしているのだともいいます。

「言葉は、表現力を高めるためにとっても重要。自分の感情をうまく言葉で表現できないと、将来的にキ



9月21日、ブックスタートで絵本に触れる4〜5か月の赤ちゃんたち。まだ言葉の意味は分からなくても、絵に興味を示したり、読み手の顔を見ながらその声に聞き入ったりする様子が見られました。

## 絵本をとおして心通わす

「子どもが小さいうちは、何を話し掛けていいのかわからず、話し掛けても独り言のようにがちがち。ですがそこで絵本を取り入れると、子どもは言葉が分からなくても絵をじっと見つめたり、時には笑ったりするようになります。そうするとより我が子に愛情を感じ、保護者自身も癒されるはずですよ」と話す岸谷元美さん(赤池)。絵本で心を揺さぶりたいという思いで名付けた「絵本を読む会ぶらんこ」の代表です。ぶらんこのボランティア協力で、町が行う4〜5か月児健診の時に、2冊の絵本をバッグに入れて一人ひとりに手渡しています。これが「ブックスタート」という取り組みです。

ブックスタートは、1992年にイギリスのバーミンガムで始まった事業で、日本では2000年の「子ども読書年」をきっかけに紹介されました。もともと絵本に関心の高い人だけでなく、地域に生まれたすべての赤ちゃんを保護者対象として「絵本をとおして楽しいひとときを分かち合う」ことを応援しています。

こうした語りかけをとおして、赤ちゃんは自分が愛されていることを感じ、安心して人と心を通わせることを学んでいきます。

## 人生の応援歌になる一冊を

レたり、暴力をふるったりでしか感情を表せなくなってしまう」。小学校などで読み聞かせを行っているメンバーの市原雅子さん(上野)も「子どもたちは、本当は素直に感情を出したいという気持ちを持っているので、絵本を読むことでそれを引き出したいですね」と話します。

「子どもでも大人でも、本の内容が今の自分の状況にピタッとハマり、

## 「ブックスタート」は4・5か月児健診で！

今後の日程 10月26日(日)、12月14日(日)、  
(来年3月まで) 平成24年2月1日(日)、3月14日(日)

時間 13時〜14時(対象者には個人通知します)

場所 コスモス保健センター **無料**

☎ 福智町中央公民館 ☎ 28-4100

本年度はこの中から2冊をお渡ししています！



## 大人たちへの読み聞かせ「絵本のつどい」

「絵本は子どもだけのもの」…そう思っていないか。大人になって絵本を開くと、また違った気付きが得られ、絵本の世界の奥深さが感じられるもの。今回、「ぶらんこ」が絵本をとおして癒やしのひとときをお届けします！



日時 10月16日(日)  
13:30〜15:00 **無料**  
場所 コスモス保健センター  
☎ ぶらんこ代表 岸谷さん  
☎ 090-7380-4558

気付きにつながる時があります。何か得られればと思いつき、読み聞かせの時は、そこに込められたメッセージが伝わるよう、感情を込めて読んでいきます」と土居美穂子さん(赤池)。

一冊の本との出会いが人生を変えていく。これは決して大げさな話ではありません。その時すぐではなくても、本がのちの人生の応援歌になることも十分ありえるのです。

10月27日〜11月9日は、今年で65回目の読書週間です。これを機に、読書習慣、始めてみませんか。